

## 歯科麻酔学 (Dental anesthesia)

責任者・コーディネーター	口腔顎顔面再建学講座（歯科麻酔学分野） 佐藤 健一 教授			
担当講座（分野）	生理学講座（病態生理学分野）、解剖学講座（機能形態学分野）、口腔顎顔面再建学講座（歯科麻酔学分野）、麻酔学講座			
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	前期		前期 56.0時間	—
			後期 —	—

### 学修方針（講義概要等）

歯科麻酔学 (Dental anesthesia) では、これまでに学修してきた解剖学、生理学および薬理学等の基礎科目の知識を再度整理・統合し、呼吸、循環、自律神経、内分泌・代謝等を臨床との関連づけを意識しながら理解することで歯科治療時の全身管理を習得する。全身管理を習得するために歯科麻酔学として全身麻酔学、局所麻酔学のみならず、精神鎮静法、全身疾患を有する患者の歯科治療時の全身管理学、ペインクリニック、救急蘇生法について講義を行う。

### 教育成果（アウトカム）

#### [講義]

これまでに学修した人体の生理学や解剖学、薬理学の知識を再度整理・統合し、麻酔と鎮静および救急蘇生の知識・技能、歯科医師として必要とする医学的知識および有病者に対する基礎的知識・病態を学ぶことで、顎口腔領域に疾患をもつ患者の適切な全身管理法を理解することができる。

（関連するディプロマポリシー：1、3～6）

### 到達目標（SBOs）

1. 局所麻酔について説明できる。
2. 全身麻酔について説明できる。
3. 全身疾患について説明できる。
4. 歯科治療時の全身管理を説明できる。

### 事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている各回到達目標の内容に関し、教科書や講義ノート、Webclass資料等を用いて事前学修（予習）を行うものとし、各授業最低40分以上を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。各授業に特記された事前学修項目がある場合は、その内容に従うものとする。授業や実習においてレポートが課された場合は、提出後、評価の上返却する。授業後は、学修した内容について教科書や配布資料を使用した事後学修を最低40分以上を要する。

（事前学修：平均40分を要する 事後学修：平均40分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/6 (月)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>歯科麻酔学概論 麻酔の概念</b>  歯科麻酔の役割、意義を学ぶことで超高齢社会における歯科麻酔医の役割を理解することができる。	1. 麻酔の概念を説明できる。 2. 麻酔法の特徴、種類を説明できる。 3. 超高齢社会における歯科麻酔医の役割を説明できる。 [E-1-4] 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第1章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	4/6 (月)	4	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>全身管理 全身状態評価法</b>  術前診察法、各種臨床検査の基準値、リスク分類を学ぶことで全身状態を評価する必要性を理解することができる。	1. 術前診察の方法を説明できる。 2. 問診、視診、触診および打診等によって患者の現症を説明できる。 3. バイタルサインを列挙し、説明できる。 4. 各種臨床検査の基準値を知り、異常な値の意味を説明できる。 5. リスク・重篤度の分類を説明できる。 [D-2-3, E-2-3] 事前学修：臨床歯科麻酔学 第6版第3章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	4/13 (月)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>全身管理 管理上問題となる疾患 1</b>  全身管理上問題となる疾患を学ぶことで歯科治療時の全身管理の重要性を理解することができる。	1. 呼吸器系疾患を説明できる。 2. 循環器系疾患を説明できる。 3. 内分泌疾患を説明できる。 4. 腎疾患を説明できる。 [D-2-3, E-2-3] 事前学修：臨床歯科麻酔学 第6版第3章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	4/13 (月)	4	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>全身管理 管理上問題となる疾患 2</b>  全身管理上問題となる疾患を学ぶことで歯科治療時の全身管理の重要性を理解することができる。	1. 神経・筋疾患を説明できる。 2. 精神疾患を説明できる。 3. 血液疾患を説明できる。 [D-2-3, E-2-3] 事前学修：臨床歯科麻酔学 第6版 第3章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	4/20 (月)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>局所麻酔 2 注射の基本手技と局所 麻酔薬 (法)</b>  注射の基本手技と局所麻酔薬 (法) を学ぶことで歯科治療時の局所麻酔の重要性を理解することができる。	1. 注射の種類と基本手技を説明できる。 (静脈内・皮内・皮下・筋肉内・骨髄内注射) 2. 局所麻酔の目的を説明できる。 3. 局所麻酔法の種類、特徴を説明できる。 4. 表面麻酔法を説明できる。 5. 浸潤麻酔法を説明できる。 6. 伝達麻酔法を説明できる。 [D-1-2-1-1~4, E-1-3-1] 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版 第4、第5章1~4を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	4/20 (月)	4	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>局所麻酔 3 局所麻酔の合併症</b>  局所麻酔の合併症とそのメカニズムを学ぶことで合併症への対処法を理解することができる。	1. 全身的合併症を説明できる。 2. 全身的合併症への対処法を説明できる。 3. 局所的合併症を説明できる。 4. 局所的合併症への対処法を説明できる。 [D-1-2-1-1~4, E-1-3-1] 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版 第5章5を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	4/27 (月)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>全身管理 モニタリング</b>  全身管理をする上で全身状態を把握するためのモニタリングの重要性を理解することができる。	1. 呼吸器系モニタを説明できる。 2. 循環器系モニタ説明できる。 3. 体温モニタを説明できる。 4. 筋弛緩モニタを説明できる。 5. 中枢神経系モニタを理解できる。 [D-2-3, E-2-3] 事前学修：臨床歯科麻酔学 第6版 第3章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	4/27 (月)	4	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能 形態学分野)	<b>局所麻酔 1 顎骨の解剖</b>  局所麻酔に必要な頭蓋骨の形態、筋隙を神経の走行から理解する。	1. 下顎孔伝達麻酔に関わる翼突下顎隙と神経の関係性について解剖学的に説明できる。 2. 眼窩下孔伝達麻酔と関係する神経の走行について解剖学的に説明できる。 3. 浸潤麻酔の際に留意すべき顎骨の構造と関係する神経の走行について解剖学的に説明できる。 <b>[A-3-2-1, 2, 3, 5, 6, A-3-3-1, 2, 4, D-1-2-1-1]</b> 配布するテキストに書き込むと共に必要に応じてディスカッションしながら進める。 事前学修：口腔解剖学第2版の教科書P232～236と第2学年のテキストの関連領域について復習しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学修：頭蓋骨の形態と神経の走行経路についての三次元的配置についてまとめること。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	5/11 (月)	3	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態 生理学分野)	<b>全身管理に必要な生理学1 自律神経系</b>  自律神経系の機能的役割を学び、全身管理における生理学の重要性を理解する。	1. 神経系の種類を列記できる。 2. 交感神経系を概説できる。 3. 副交感神経系を概説できる。 4. アドレナリン受容体と薬理作用を説明できる。 5. アセチルコリンの作用を説明できる。 6. アトロピンの薬理作用を説明できる。 <b>[C-3-4)-(5)-(7)(9)]</b> 事前学修：2年次に用いた講義用資料を読み直して、知識の確認を行うこと。
講義	5/11 (月)	4	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態 生理学分野)	<b>全身管理に必要な生理学2 循環</b>  心機能・血圧調節を学び、全身管理における生理学の重要性を理解する。	1. 心臓の解剖学的特徴を説明できる。 2. 刺激伝導系を説明できる。 3. 心臓の神経系による調節を説明できる。 4. 心周期を説明できる。 5. 前負荷と後負荷を説明できる。 <b>[C-3-4)-(4)-(2)]</b> 事前学修：2年次に用いた講義用資料を読み直して、知識の確認を行うこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	5/18 (月)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>精神鎮静法</b>  精神鎮静法の概念、各 種精神鎮静法を学ぶこ とで歯科治療時におけ る精神鎮静法の必要性 が理解できる。	1. 精神鎮静法の概念、目的、適 応、禁忌、種類、実施法を説明でき る。 2. 吸入鎮静法を説明できる。 3. 静脈内鎮静法を説明できる。 4. 静脈内鎮静法の使用薬剤を説明 できる。 <b>[D-1-2-2, E-1-3-2]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版 第6章を読み、疑問点を抽出してお くこと。事前学習の時間は最低40分 以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分で あった箇所については、講義資料や 教科書等を用いて事後学修を行うこ と。事後学修の時間は40分以上を要 する。
講義	5/18 (月)	4	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>全身麻酔法 1</b>  全身麻酔の理論、気道 確保法を学ぶことで全 身麻酔を理解すること ができる。	1. 全身麻酔の理論を説明できる。 2. 吸入麻酔法を説明できる。 3. 麻酔導入法・麻酔維持・麻酔の 覚醒を説明できる。 4. 全身麻酔における気道確保法を 説明できる。 <b>[D-1-2-3]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版 第7章を読み、疑問点を抽出してお くこと。事前学習の時間は最低40分 以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分で あった箇所については、講義資料や 教科書等を用いて事後学修を行うこ と。事後学修の時間は40分以上を要 する。
講義	5/25 (月)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>全身麻酔法 2</b>  気管挿管法、各種麻酔 法を学ぶことで全身麻 酔を理解することがで きる。	1. 気管挿管の適応、手技を説明で きる。 2. 静脈麻酔法を説明できる。 3. 全身麻酔時に行うモニタリング を説明できる。 <b>[D-1-2-3]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版 第7、9章を読み、疑問点を抽出して おくこと。事前学習の時間は最低40 分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分で あった箇所については、講義資料や 教科書等を用いて事後学修を行うこ と。事後学修の時間は40分以上を要 する。

講義	5/25 (月)	4	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>全身麻酔法 3 麻酔で使用する薬剤に ついて</b>  神経筋伝達の機序およ び筋弛緩のモニタリン グについて説明でき る。	1. 神経筋伝達の機序を説明でき る。 2. 主な筋弛緩薬について説明でき る。 3. 筋弛緩モニタリングを説明でき る。 4. 筋弛緩薬の拮抗について説明で きる。 <b>[D-1-2-3-2]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版 第7章4を読み、疑問点を抽出してお くこと。事前学習の時間は最低40分 以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分で あった箇所については、講義資料や 教科書等を用いて事後学修を行うこ と。事後学修の時間は40分以上を要 する。
講義	6/1 (月)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>全身麻酔法 4 麻酔で使用する器具に ついて</b>  全身麻酔で使用する器 具を学ぶことで全身麻 酔についての理解が深 まる。	1. 全身麻酔で使用する器具を説明 できる。 2. 気管挿管の適応、手技を説明で きる。 <b>[D-1-2-3]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版 第7章を読み、疑問点を抽出してお くこと。事前学習の時間は最低40分 以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分で あった箇所については、講義資料や 教科書等を用いて事後学修を行うこ と。事後学修の時間は40分以上を要 する。
講義	6/1 (月)	4	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>周術期管理 1 術前管理</b>  術前管理を学ぶことで 全身管理を理解するこ とができる。	1. インフォームドコンセントを説 明できる。 2. 経口摂取制限を説明できる。 3. 常用薬の取り扱いを説明でき る。 <b>[E-1-4)-③]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版 第8章1を読み、疑問点を抽出してお くこと。事前学習の時間は最低40分 以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分で あった箇所については、講義資料や 教科書等を用いて事後学修を行うこ と。事後学修の時間は40分以上を要 する。

講義	6/8 (月)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>周術期管理 2 術中管理・合併症</b>  術中管理と合併症を学 ぶことで全身管理を理 解することができる。	1. 呼吸・循環・体温管理を説明で きる。 2. 酸塩基平衡の管理を説明でき る。 3. 輸液・輸血を説明できる。 4. 呼吸器・循環器の合併症を説明 できる。 5. 代謝性合併症を説明できる。 6. 悪性高熱症を説明できる。 <b>[D-1-2-3-3]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版 第8章2を読み、疑問点を抽出してお くこと。事前学習の時間は最低40分 以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分で あった箇所については、講義資料や 教科書等を用いて事後学修を行うこ と。事後学修の時間は40分以上を要 する。
講義	6/8 (月)	4	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>周術期管理 3 術後管理・合併症</b>  術後管理と合併症を学 ぶことで全身管理を理 解することができる。	1. 術後の全身管理を説明できる。 2. 術後全身合併症を列挙し、対処 法を説明できる。 3. 術後疼痛管理を説明できる。術 後鎮痛薬の種類と特徴を説明でき る。 <b>[D-1-2-3-3]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版 第8章3を読み、疑問点を抽出してお くこと。事前学習の時間は最低40分 以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分で あった箇所については、講義資料や 教科書等を用いて事後学修を行うこ と。事後学修の時間は40分以上を要 する。
講義	6/15 (月)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>歯科外来の全身麻酔</b>  歯科外来における全身 麻酔法を理解するこ とができる。	1. 外来全身麻酔の概念を説明でき る。 2. 障がい者の麻酔を説明できる。 3. 歯科外来全身麻酔の適応を説明 できる。 4. 歯科外来全身麻酔として選択す べきではない症例を説明できる。 5. 歯科外来全身麻酔の流れを説明 できる。 <b>[D-1-2-3, E-2-3, D-5-7-1]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版 第9章を読み、疑問点を抽出してお くこと。事前学習の時間は最低40分 以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分で あった箇所については、講義資料や 教科書等を用いて事後学修を行うこ と。事後学修の時間は40分以上を要 する。

講義	6/15 (月)	4	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>小児と高齢者の全身麻酔</b>  小児の解剖・生理学的特徴、高齢者の身体の医学的特徴・老化による身体的変化を学ぶことで小児と高齢者に対する全身麻酔法を理解することができる。	1. 小児の解剖・生理学的特徴と麻酔との関係を説明できる。 2. 小児の全身麻酔の方法、特徴を説明できる。 3. 高齢者の身体の医学的特徴を説明できる。 4. 老化による身体的変化を説明できる。 5. 高齢者に対する全身麻酔を説明できる。 <b>[D-1-2-3, E-2-3, D-5-7-1]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第10、11章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	6/22 (月)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>歯科治療時の全身的合併症・偶発症 1</b>  全身的合併症・偶発症とそのメカニズムを学ぶことで対処法を理解することができる。	1. 血管迷走神経反射を説明できる。 2. 過換気症候群を説明できる。 3. 術中異常高血圧を説明できる。 4. 心筋虚血を説明できる。 5. 不整脈を説明できる。 6. 急性心不全を説明できる。 <b>[D-1-2-1-5]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第12章を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	6/22 (月)	4	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>歯科治療時の全身的合併症・偶発症 2</b>  全身的合併症・偶発症とそのメカニズムを学ぶことで対処法を理解することができる。	7. 脳卒中を説明できる。 8. 気管支喘息を説明できる。 9. 糖尿病性昏睡を説明できる。 10. 低血糖性昏睡を説明できる。 11. 仰臥位低血圧症候群を説明できる。 12. 異物の誤飲・誤嚥を説明できる。 <b>[D-1-2-1-5]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第12章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	6/29 (月)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>救急救命処置</b> 救命処置を学ぶことで 救急時の対処法を理解 することができる。	1. 救急蘇生法を説明できる。 2. 救命の連鎖を説明できる。 3. 一次救命処置を説明できる。 4. 成人における窒息の解除を説明 できる。 5. 二次救命処置を説明できる。 6. 小児の救急蘇生法を説明でき る。 7. 脳死について説明できる。 <b>[D-1-1]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版 第13章を読み、疑問点を抽出してお くこと。事前学習の時間は最低40分 以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分で あった箇所については、講義資料や 教科書等を用いて事後学修を行うこ と。事後学修の時間は40分以上を要 する。
講義	6/29 (月)	4	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>ペインクリニック</b> 顎口腔領域の疼痛性お よび麻痺性疾患を学ぶ ことで疼痛管理の重要 性を理解することがで きる。	1. 顎顔面口腔領域の疼痛及び麻痺 性疾患を説明できる。 2. 三叉神経痛の概念、症状及び治 療法を説明できる。 3. 顔面神経麻痺の概念、症状及び 治療法を説明できる。 4. 星状神経節ブロックの適応、方 法及び合併症を説明できる。 <b>[D-3-1-9, D-5-9-5]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版 第14章を読み、疑問点を抽出してお くこと。
講義	7/6 (月)	3	大畑光彦准教授 (麻酔学講座)	<b>東洋医学療法</b> 特に口腔顔面痛に対し て東洋医学療法を理解 することができる。	1. 東洋医学の病態について説明で きる。 2. 東洋医学療法の進め方を説明で きる。 3. 漢方療法・鍼灸療法を説明でき る。 4. 口腔顔面痛に対する漢方療法を 説明できる。 <b>[E-1-3-3]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版 第15章を読み、疑問点を抽出してお くこと。事前学習の時間は最低40分 以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分で あった箇所については、講義資料や 教科書等を用いて事後学修を行うこ と。事後学修の時間は40分以上を要 する。

講義	7/6 (月)	4	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>救急薬剤について</b> 救急薬を学ぶことで救急時の薬剤投与を理解することができる。	1. 循環器系に作用する薬剤を説明できる。 2. 抗けいれん薬を説明できる。 <b>[D-1-2-3]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学 第6版 第16章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	7/13 (月)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>麻酔に必要な生理学1</b> 麻酔を行う際に必要な生理学を理解することができる。	1. 循環生理、特に低酸素性肺血管収縮を説明できる。 2. 呼吸生理、特にスパイログラムから鑑別する肺疾患について説明できる。 3. 神経生理、特に自律神経に作用する薬物を説明できる。 <b>[D-1-2-3-1]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学 第6版 第2章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	7/13 (月)	4	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>麻酔に必要な生理学2</b> 麻酔を行う際に必要な生理学を理解することができる。	1. 酸塩基平衡、特に酸塩基平衡異常の原因について説明できる。 2. 動脈血液ガス分析について説明できる。 <b>[D-1-2-3]</b> 事前学修：臨床歯科麻酔学 第6版 第2章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

## 教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	臨床歯科麻酔学 第6版	丹羽均ほか編著	永末書店	2021年
参	今日の治療薬：解説と便覧 2023年版	川合眞一ほか編	南江堂	2023年
参	歯科麻酔学 8版	福島和昭ほか編	医歯薬出版	2019年
参	基礎歯科生理学 7版	岩田幸一ほか編	医歯薬出版	2020年
参	生理学テキスト 9版	大地陸男 著	文光堂	2022年
参	口腔解剖学 第2版	井出吉信ほか編	医歯薬出版	2018年

## 成績評価方法・基準・配点割合等

定期試験（最終試験）評価点 = 65点以上を合格とする。

到達目標	DP	定期試験	その他	合計
1	4	25		25
2	4, 6	25		25
3	4	25		25
4	1, 4	25		25
<b>合計</b>		<b>100</b>		<b>100</b>

## 特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用等）

### 再試験について

評価点が65点未満の場合には、学期末に行われる再試期間に再試を受けることができます。再試は全ての範囲です。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

## 授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的
カラー複合機・DocuCentre IV C3370P	1	基礎実習・臨床実習用機器	講義資料作成用
ノートパソコン・MacBookAir 一式 11インチ MC505J/A	1	基礎実習・臨床実習用機器	講義資料作成用
ノートブックパソコン・MacBookAir 一式 CTO Education Z0JK	1	基礎実習用機器	講義資料作成・提示用
ノートパソコン・VAIO VPCS149FJ/B	1	基礎実習用機器	講義資料作成・提示用
デスクトップパソコン・MacPro 2.4GHz 8Core Xeon Z0LG	1	基礎実習用機器	講義資料作成用
カラー複合機・一式 imaggio MPC3301	1	基礎実習・臨床実習用機器	講義資料作成用
ノートパソコンL e t s note B10 CF-B10 CWHDR	1	基礎実習・臨床実習用機器	講義プレゼンテーション用
ノートパソコン・MacBookAir	1	基礎実習・臨床実習用機器	講義プレゼンテーション用
ノートパソコン MacBook Pro	1	基礎実習用機器 視聴覚機器	症例プレゼンテーション用

デスクトップパソコン	MC813J/A	1	基礎実習用機器 視聴覚機器	実習資料保存 症例プレゼンテーション用
Ettan IPG phor+Strip Holder一式		1	基礎実習用機器	実習試料作成用
ノートパソコン MacBook Pro	MD101J/A Education	1	基礎実習用機器 視聴覚機器	症例プレゼンテーション用
デスクトップパソコン	Vostro 470 モニター	1	基礎実習用機器 視聴覚機器	講義に使用する配布資料の 作成
デジタルカメラ一式	OM-D E-M10	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	症例提示資料の作成
ノートパソコン・MacBook Air 11イン チ		1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義プレゼンテーション 症例提示用
歯科用ユニット スマイリー 一式	GMP2-MS1211	1	臨床実習用機器	全身管理、精神鎮静法の実 習
ノートパソコン・MacBookPro	MGXA2JA	1	視聴覚用機器	講義資料提示用
デスクトップパソコン・iMac27 一式	Retina5K Z0QX Academic	1	視聴覚用機器	講義資料提示用
ノートパソコン・dynabook 一式	PR73PBP-SHA	1	視聴覚用機器	講義資料提示用
両袖机	LE-157D-33	1	視聴覚用機器	講義資料の作成
MacBookPro RetinaDisplay	Z0QN BTO Academic	1	視聴覚用機器	講義でpptでの視聴覚素材供 覧に使用
プレゼンテーションマウス	ELAMGU91	1	視聴覚用機器	講義のプレゼンテーション
メディカルビデオレコーダー	UR-4MD	1	視聴覚用機器	実際の手術術式の供覧
27インチ iMac Retina 5Kディスプレイ 一式	Z0SC Academic	1	視聴覚用機器	講義のプレゼンテーション 作製
ノートパソコン 一式	PC-NS150CA	1	視聴覚用機器	講義のプレゼンテーション
ノートパソコン	CFSZ5HDKRP	1	視聴覚用機器	講義のプレゼンテーション
CEチェア RXタイプ	CE68RXP794	1	視聴覚用機器	講義のプレゼンテーション 作製
Macmini CoreI5	MGEQ2JA (SSS)	1	視聴覚用機器	講義のプレゼンテーション 作製
一眼レフカメラ	E0S80D (SSS)	1	視聴覚用機器	実際の症例の供覧
マクロリングライト	MR14EX2	1	視聴覚用機器	実際の症例の供覧
ノートパソコン・MacBookAir	13インチ ZORJ Academic	1	基礎実習・研究用機器	授業の資料提示用
デスクトップ型パソコン	XPS8900	1	基礎実習・研究用機器	授業の資料作成及び研究 データ解析用
冷蔵庫	SJS17B	1	基礎実習・研究用機器	実験、実習試料及び試薬の 保存
ノートパソコン ProBookNotebookPC	450 G2	1	視聴覚用機器	講義資料の作成
複合機 一式	MP C3504SP	1	視聴覚用機器	講義資料の作成
ノートパソコン	B9440UA-750016	1	視聴覚用機器	講義資料の作成
ノートパソコン	UX430UN-8550	1	視聴覚用機器	講義資料の作成
レーザー血流量計	ALF21D	1	基礎実習・研究用機器	講義資料作成及び研究
ノートパソコン	OneMix 2s	1	視聴覚用機器	授業のデモ及び研究データ 解析用
ノートパソコン MacBookPro	MPXQ2JA	1	視聴覚用機器	授業のデモ及び研究データ 解析用
タブレットパソコン11インチiPadPro Wi-Fi128GB一式	MY232J/A	1	視聴覚用機器	講義の資料提示用